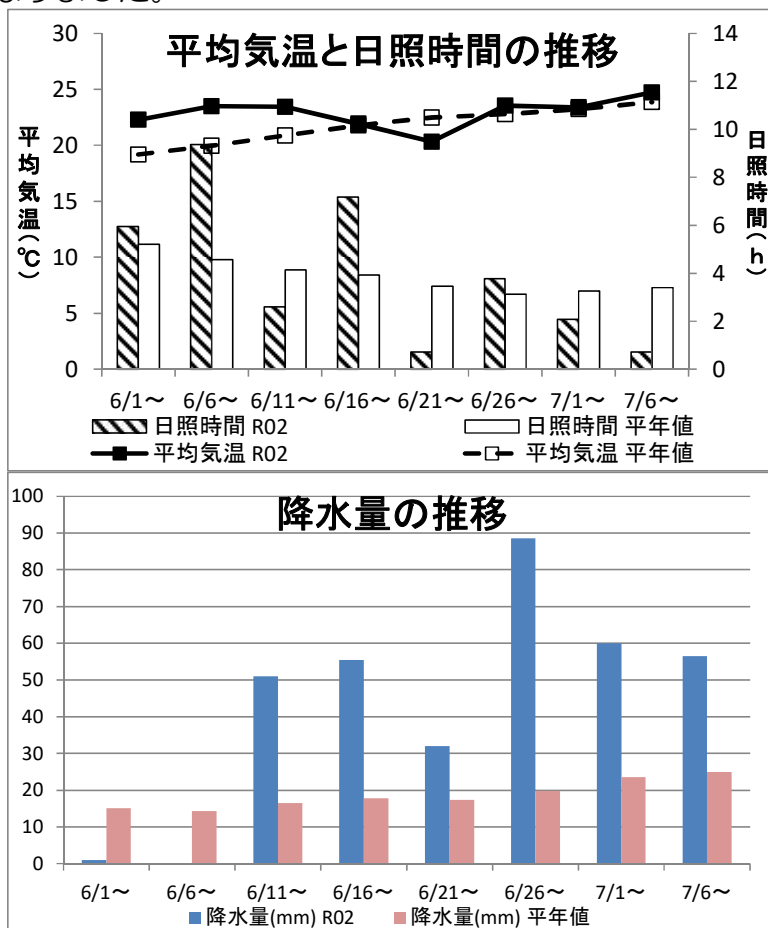


水稻生育情報 (No.5)

令和2年7月10日
 県西農林事務所 経営・普及部門
 (筑西地域農業改良普及センター)
 TEL:0296-24-9206

【生育概況】

- ・6月からの気象(6/1~7/10)は、気温は第5半旬を除くと高温で推移し平年より1.1℃高く、日照時間は平年並の104%で、降水量は6月中旬以降に雨が続き平年の231%と多くなりました。



- ・水稻定点調査における管内の「コシヒカリ」生育状況を下表に示します。7月9日現在の生育は、草丈は平年並~長く、莖数は圃場によるばらつきが大きく、葉色は平年並~やや濃い状況です。出穂期予測は今後の気温が平年並で推移する場合の予測です。

表1 水稻定点調査結果(7月9日現在:コシヒカリ)

調査地点	田植え日	植付株数 株/坪	草丈 cm	莖数 本/m ²	葉色		幼穂長 mm	出穂予測日 (月/日)
	月/日				葉色版	SPAD値		
筑西市	5月7日	57	80.4	458	4.0	35.4	1.0	8/3
一本松	(5月2日)	(55)	(83.2)	(558)	(4.0)	(32.7)	(16.6)	
下妻市	4月30日	48	87.0	458	4.0	34.9	22.5	7/24
加養	(5月1日)	(48)	(81.2)	(531)	(3.6)	(32.1)	(17.5)	
桜川市	5月7日	66	78.2	596	3.7	33.1	3.0	7/31
岩瀬	(5月14日)	(61)	(71.6)	(498)	(3.9)	(34.0)	(2.3)	
桜川市	5月5日	50	81.5	533	3.9	35.8	3.8	7/30
真壁町飯塚	(5月6日)	(51)	(78.8)	(445)	(4.0)	(32.4)	(6.2)	

()内は平成27~令和元年の5カ年平均値

(桜川市岩瀬のみ田植の遅れた平成30年を除く平成26~令和元年の5カ年平均値)

【今後の管理のポイント】

1 紋枯病

紋枯病は、前年の被害株で発生した菌核が越冬して伝染源になります。

このため、前年発生が多かった水田は、引き続き発生が多くなる傾向があります。

また、茎数が多い栽培や品種では、発生が多くなる傾向があります。

発生を認めた場合には早期に防除を行いましょう。



葉鞘部の病徴

2 斑点米カメムシ類

斑点米の発生を防止するためには、乳熟期以降の幼虫密度を低下させる必要があります。このためには、

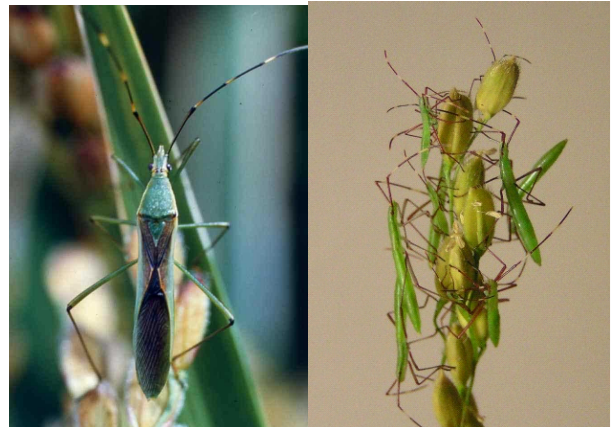
①成虫飛来期（出穂期～穂揃い期）に薬剤散布を行い、成虫密度を低下させ産卵数を減少させる

②幼虫のふ化期～若齢期（①の7～10日後）に薬剤散布を行い、幼虫密度を低下させる

の2時期に防除を行う事が重要です。

早生や晩生など、周りのほ場と熟期が違うほ場では、集中して被害を受けるため、特に注意が必要です。

斑点米カメムシ類の耕種的防除として畦畔等のイネ科雑草は斑点米カメムシ類の生息場所となるため除草を徹底しましょう。ただし、水田内への追い込みを避けるため、水稻が出穂する2週間前までに除草を完了させましょう。



クモヘリカメムシの成虫と幼虫

	7月		8月			9月		
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬		
イネの生育	幼穂形成期 穂ばらみ期		出穂期	乳熟期		成熟期		
カメムシの生態 (成育ステージ)	イネ科雑草に生息		成虫飛来期・産卵期	ふ化期	若齢期	中齢期	老齢期	羽化
水田の管理と 防除時期	畦畔の草刈り (成虫の飛来防止)		① ←→		② ←→		イネ科雑草に移動	

図 クモヘリカメムシの防除時期について

3 イネ縞葉枯病

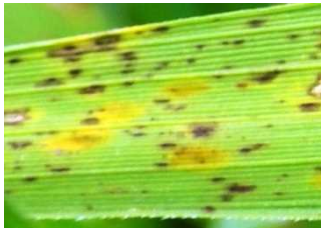
今後の対策として、来年のイネ縞葉枯病の発生を抑えるために、ウイルスを媒介するヒメトビウンカの生息密度を減らしましょう。

ひこばえはヒメトビウンカの生息地となるだけでなく、ウイルスの伝染源となるため、田んぼは早めに耕起しましょう。また、ヒメトビウンカは、幼虫が畦畔や農道のイネ科雑草の中で越冬します。越冬場所となる雑草をなくせば、ヒメトビウンカが冬を越すことができず、来春成虫になる数を減らすことができます。冬の間でも枯れずに生育するイネ科雑草は除草剤でしっかり枯らしておきましょう。

4 いもち病

病原菌は「カビ」の仲間で、肥料が多かったり、置き苗をそのまま田んぼに放置してしまうなど、軟弱で徒長した稲に感染しやすい病気です。また、雨やくもりの日が続いて毎日ジメジメしており、気温がやや低い（日平均気温が20～25℃）時に発生が増加します。最初は葉から感染し、減収などの原因と成ります。症状が極めて強い場合、ズリコミ症状を起こし、穂が出なくなることもあります。

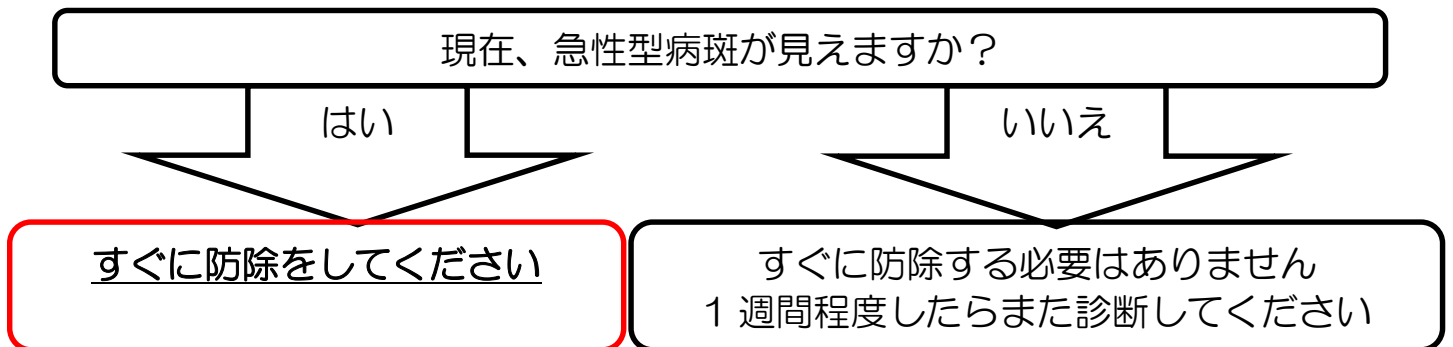
現在発生しているのは葉いもちで、これは発生の状態によって3種類に分けられます。赤褐色の菱形や紡錘型の点状の病斑（褐点型）、紡錘型で外側が褐色、内側が白色～灰色の病斑（停滞型）、灰色～暗褐色で楕円形～葉身方向に不定形の病斑（急性型）があります。



今後増加・感染する危険



・葉いもちの防除について診断しましょう



・穂いもちの防除について診断しましょう（出穂前）

